



## 慶應義塾大学ビジネス・スクール

# ビールの需要予測

5

2006年春, XYZ証券会社の調査部に配属された新人のA氏は,先輩のアナリストB氏から,ビール市場の動向に関するレポートを自社の顧客投資家向けに作成するように指示された。A氏は大学で学んだ統計的方法論を用いて,ビール需要の変動を定期的に説明し,さらに,今後の需要についての予測も試みることにした。

10

A氏はかつて,ビールの売れ行きは天気,人気,景気の「3気」に左右されると言う話をどこかで読んだ覚えがあった。<sup>[1]</sup> 人気をビールの個ブランドを指していると考えれば,市場全体の分析にあたっては除外して考えてもよいのではないか。そう考えたA氏は,残りの二つの「気」に焦点を絞りながら分析を始めることにした。

15

表1～4にA氏が分析に用いたデータを示す。表1は,1996年から2005年までの10年間のビール大手5社(アサヒ,キリン,サッポロ,サントリー,オリオン)によるビール酒造組合月ビール出荷(課税移出数,単:キロリットル)である。表2は,気象庁により発表されている同期間における「日平均気温の月平均(°C)」,表3は,「相対湿度の月パーセント」である。ともに計測地点は「東京」である。一方,

20

A氏は,まず,ビール需要の変動を説明するために,月次ビール出荷を被説明変数,DI一致指数,平均気温,湿度の3変数を説明変数とする重回帰モデルを考えた。すなわち,

25

[1] 能重正規「ビールの需要予測と季節変動」,オペレーションズ・リサーチ,1998年8月号,426-430.

本ケースは,慶應義塾大学大学院経営管理研究科准教授 林 高樹がクラス討議のために作成した。本ケースの記述は,経営管理の巧拙を例示するためのものではない。本ケースに掲載されているデータは,文中で示されているインターネットの各サイト上で入手可能である。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり,複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール(〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号,電話 045-564-2444, e-mail: case@kbs.keio.ac.jp)。また,注文は <http://www.kbs.keio.ac.jp/> へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに,いかなる部分の複製,検索システムへの取り込み,スプレッドシートでの利用,またいかなる方法(電子的,機械的,写真複写,録音・録画,その他種類を問わない)による伝送も,これを禁ずる。

30

Copyright© 林 高樹 (2007年作成)